

# 1.1 都市構造上の特性と本市が抱える課題の分析

## (1) 都市構造上の特性

本市は、日本海に面し、JR小樽駅周辺を中心市街地を中心として、東西に細長く約 69km に及ぶ海岸線に沿う形で、東側の札幌市に隣接する銭函地域には銭函や桂岡町など、西側の塩谷地域には豊かな自然に囲まれた蘭島や塩谷などの市街地が飛び地で形成され、その背後には山岳丘陵地が迫っているため、坂が多く平坦な土地が極めて少ない特有の地形をなしています。

現在、本市の市街化区域(面積 4,288ha)は、市域(面積 24,383ha)の約1/5を占め、主要な幹線道路(国道5号等)沿線やその周辺に限定的に市街地が広がり、既に一定程度コンパクトな市街地が形成されている状況にあります。



図 2-1 位置図



図 2-2 小樽市の地勢(3D)

資料: 小樽市航空写真(令和6年度小樽市撮影)

※データを加工して使用